

挾間史談第二号発刊に寄せて

会長 加藤 照 廣

挾間史談会々誌「挾間史談」第二号発刊の運びに至ったこと慶賀に堪えません。会員の皆様とともに喜びを分かち合いたいと思います。

第二号発刊に当たって改めて創刊号をめくってみました。創刊号の発刊は会発足後七年目の平成二十二年四月でしたから、今号は八年目になります。昨年引き続き第二号を発刊できるということは、挾間史談会の活動が軌道に乗ってきたことを意味していると思います。

顧みますと私の場合、日本史（戦前は國史と称した）を齧りはじめて凡そ七十年になりますが、その間殆ど通史ばかりで、多少特殊部門例えば交通史、政治思想史、儒学史等々に目を通しましたが、熟読したことはなく、また「近世地方史研究入門」「地方史研究必携」「歴史とは何ぞや」も一読しましたが、これも手引書です。郷土のこと・挾間町の歴史を調べてみようという関心はありませんでした。

平成十五年四月この研究会のことを知って入会した次第です。郷土挾間町の歴史について全く無知でしたから。史談会に出席して発表を拝聴し、或いは創刊号の挾間氏の研究、荒城の月と二つのはさま町、下市恵比寿、挾間町の沿革と農業水路、わたしの挾間史談、大龍山永慶寺、歴史は未来からスタートする等々は、私には初めてのことばかりでした。第二号についても興味津々、大いに期待しているところです。

末筆乍ら今後とも、多種多様な研究調査を進められ、会の尚一層の充実・発展を願っているところです。